地域の人々の健康を支援する「相談薬局」!!

「プラザアオノ薬局」メトロピア行徳店 遠藤悦司店長（登録販売者）

「駅の階段で滑り、転んだ人がすぐ飛び込んできて、湿布剤や傷薬を求め、応急処置をしていく」と店長の遠藤悦司氏が話すようにプラザアオノ薬局メトロピア行徳店（市川市行徳駅前2-4）は地下鉄東西線行徳駅改札口から徒歩30秒以内の正面に開局。20～60代の客層、6対4で女性客が多く、駅前のためビジネスマンやOLも通勤の行き帰りに足繁く立ち寄る。長時間労働のため、ストレスも重なり疲れ気味。このような人たちに元気を取り戻してもらおうと、同店は疲労回復に役立つ様々な医薬品や健康食品を揃えている。生活習慣病の予備群（境界線）の人も自己管理の相談に訪れる。「困ったときには薬局で相談」の意識がもっと広まってほしい―と願う店長。同薬局は、地域の人々のセルフメディケーションの支援をしている。

20～60代が中心の客層、6対4の割合で女性の方が多いというプラザアオノ薬局。「よく相談に来られるのは、40代後半～60代の女性。昼間は働いているため、病院に行く時間がない人。風邪と痛みのほか、胃腸障害の相談も多い」と遠藤氏。しかし、「病院に通院しているがどうも状態が思わしくない」という人や「血糖値、血圧、中性脂肪も高めで、もう少し何とかならないか?」という相談も多く、そういう人たちには、話題の〝水素水〟（写真下）を取り扱っているため、これを推奨している。ストレスや活性酸素が溜まり、元気が出ない人が増えたのだろうか…。30～60代（男女半々）の人が〝元気の源〟を熱望。

東京メトロ東西線行徳駅改札口から徒歩30秒足らずの「プラザアオノ薬局メトロピア行徳店」

プラザアオノ薬局メトロピア行徳店（千葉県市川市）遠藤悦司店長

駅前のため、ビジネスマンやOLの客が多いプラザアオノ薬局。現代人は疲れ気味の傾向。疲労回復の〝手立て〟を求めて薬局を訪れる。そのようなお客さんのため、店内の〝疲労回復コーナー〟（右下写真）には、様々な疲労対策の医薬品や健康食品が陳列されている。

現代人は疲れ気味。疲労回復や偏った栄養の改善と補助！

『渡辺オイスター』は牡蠣のサプリメント。ミネラルなどの栄養補給に！熊笹を原料に血液の循環を促進する『サンクロン』は疲労回復のほか、食欲不振や口内炎、口臭・体臭の改善に効果のあるグリーンの医薬品。

カツオの肝臓から造られた『レバコール』は必須アミノ酸が豊富な肝臓水解物の医薬品。長時間労働やスポーツで疲労の人に。このほか、佐藤製薬の乳酸菌でケアする栄養機能食品『バイオン3』など「豊富に製品を揃えているのでご覧ください」と遠藤氏。これらの製品は疲労回復をサポートするほかカロリーは高いが、栄養が偏った多くの現代人の食生活改善の補助としても利用されている。

現代の社会状況を反映してか？疲労回復を求めて薬局を訪れる人も多い！

困ったときは薬局に！

生活習慣病予防のサポートも

中国人をはじめ、アジア系の外国人が行徳の人口の26人に1人を占める多さである。「中国人は漢字の筆談で通じるが、ほかの国の日本語のわからないお客さんには英語の片言で対応している」と工夫している同薬局。

相談で多いのが風邪。早めに来る人もかなり重くなってくる人も、会社を休めないので、とにかく早く治したいという要望が強い。アオノ薬局で相談できるのを知っていて「前に相談した時に薦めてもらったかぜ薬を飲んでいる」というお客さんも多いと話す遠藤氏。

胃腸の具合の悪い相談では、ストレス由来の胃腸障害、月曜日に相談に見える。「以前は金曜日に飲み過ぎで二日酔いの相談に見える人が多かったが、今ではそんなに飲む人は少ない」と今昔の社会変化を語る遠藤氏。

胃腸薬で気をつけたいのは、胃痛や胸焼けで胃酸過多と胃酸不足の薬を逆に購入する人。これを間違えるとむしろ症状が悪化。TVCMを見てくるお客さんが多く、それがわかっていない。「店側も注意が必要」と遠藤氏は心配顔。肩こり痛や腰痛などを訴えて薬局を訪れる人も多い。鎮痛剤では『ロキソニンS』の人気も高い。痛みを抑えるのが鎮痛剤だが、原因を突き止め治療しないと完治しない。「専門の医院を紹介することもある」と遠藤氏。ときには受診勧奨もしている。

ストレスなどが溜まり、元気が出ない人に〝水素水〟を推奨！

市川市行徳地区は、本塩、塩焼、塩浜といった地名が残っているように、戦国時代に始められた製塩が江戸時代に盛んになり、江戸に塩を供給。徳川幕府に保護され、規模も関東一を誇っていた。また、交通面でも、徳川三代将軍家光の頃には、日本橋の行徳河岸（小網町）と行徳の間に行徳舟の定期航路が運行。江戸から成田山新勝寺への参詣ルートなどで繁栄した。

近代になってからは、鉄道路線からは外れたものの、1969年（昭和44年）に地下鉄東西線が全線開通してからは、鰻登りに人口も増加。現在では、行徳地区の人口は16万人近くに膨張、特に

話題の〝水素水〟ボックス（左）

アジア系外国人の住民は6,000人を突破（26人に1人）している。

このような地域で「プラザアオノ薬局」は、1998年（平成10年）12月、現在地に誕生した。同薬局の母体・株式会社アオノ（青野匡宏社長）は、1965年（昭和40年）3月設立。「相談して良かったと思うお客さんを作る」（金子徹取締役会長）の考えのもと、現在、調剤・OTC・介護・漢方・鍼灸など地域で7薬局の経営をしている。

(株)アオノ

「相談して良かった」選ばれる〝かかりつけ薬局〟に！